

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100620		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム 星の家中央 (2F)		
所在地	岡山県岡山市北区奥田2丁目5-20		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3390100620-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3390100620-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 6 月 15 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症をお持ちの方が生活しやすいように、モンテッソーリケアを会社全体で取り組んでおり、ご入居者が、楽しみや生きがいを感じて頂ける様に支援している。出来る限り、ご自分で出来るように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念であるモンテッソーリケアを約5年実践している。職員は、利用者が、このグループホームで生活しやすいように、時間を利用者に合わせ、利用者一人ひとりが自分らしさを取り戻している。歩行は、廊下にテープで線を引き、歩きやすくしたり、蛇口から水を出すために「押す」という動作を示すシールを貼ったりすることで、利用者と職員との距離感を縮めている。また、日々の利用者の行動を手にとることが出来るように申し送りノートに記載し、申し送りノートを確実に情報共有し、次に何をすればいいのかを検討・模索できる体制となっている。利用者本位のケアが実践でき、穏やかで安心した空間作りとなっている。職員の意見もゲートキーパー役の職員が、いつ何時でも語れ、施設の発展に向けて一丸となってベクトルを合わせていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	<b>有限会社アウルメディカルサービス</b>			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	モンテッソーリケアの導入に伴い、理念を変更し、事務所に掲示し共有に努めている。	理念は各事務所と会議室に掲示している。理念であるモンテッソーリケアを意識して支援を行っており、新規職員が入った場合には、理念を伝えるだけでなく、5つのポイントを順に課題として掲げ、支援に役立てて頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染のため、ボランティアの受け入れを中止している。	町内会に入っており、今年度は組長になっていることもあり、町内の方と一層多くの関りを持っている。ゴミ当番等の役割にも、積極的に参加し、毎週土曜日には、ゲートボールの見学に行き縁を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会長や民生委員、地域包括支援センターの方に伝えているが、コロナ感染のため、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染のため、中止となっている。構成員やご家族へは、電話での聞き取りになっている。報告書を作成し、配布している。	地域生活包括支援センター、民生委員、町内会の方が参加されている。開催ができない場合には、電話で様子を伝えている。民生委員の意見から、地域活動への参加が増えている。	運営推進会議の資料を送られる際に、事業所内で作成している新聞を同封し、面会に来られている姿に変わる近況も伝えて、ご意見をいただければどうでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの方など、積極的に関わりを持たせて頂いているが、コロナの影響であまり出来ていない。	運営推進会議に合わせ、2ヶ月に1度、施設長が必ず電話連絡を入れ、状況報告を行っている。市町村との連絡は、会社を中心に行っており、情報は会社から受け取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で勉強する機会を設けたり、事務所に資料を置いている。年間研修でも取り組んでいる。	会社全体では、年に2回研修を行っている。事業所内では、2ヶ月に1度、話し合う機会を設けている。スピーチロックとならない方法や、車いすを置く位置によっては、身体拘束にあたるのではないかと内容が議題に挙がることが多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議や資料で勉強する機会を作り、発生しないよう注意している。年間研修でも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会は設けているが、全職員が理解できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新入居のインテーク時や契約時に、相談をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナのため、面会を制限しているが、必要に応じて話し合いの場を設けている。また、リモート面会や電話などを活用し、把握に努めている。	家族からは、利用者に「もう一回会いたい」「一緒に出掛けたい」との言葉が見られている。コロナの状況を加味し、制限を設けつつ思いを汲み取るように努めている。難しい場合には、理由を説明しており、ケアプランにも掲げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や業務報告書を利用し機会を設けている。	毎月職員より、業務報告書として課題が挙がっている。その際には、どうすれば良いかを検討し、起案として上げている。課題に対しては、会社として必ず回答することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、面談などを行っている。退職者を無くすため、受入れのマニュアルを作成したり、処遇なども定期的に見直しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に新人レポートやチャック表を作成し、活用している。社内研修や外部の研修にも参加出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月1回他部署の施設長、管理者が集まり会議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居時のインテークや入居してからの関わりを通して、把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に職員からのお願い等を管理が窓口でご家族とお話しをする。不在の時は申し送りに対応出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全体で検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃からコミュニケーションを図り、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナのため、面会を制限しているが、必要に応じて話し合いの場を設けている。また、リモート面会や電話などを活用し、把握に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナのため、面会を制限しているが、必要に応じて話し合いの場を設けている。また、リモート面会や電話などを活用し、把握に努めている。	スーパーなど、行き慣れた場所に行かれると「来たことがある」との言葉が見られ、馴染みの場所になっていることに実感が持てる。テレビや新聞、写真を活用し、思い出を想起してもらうことに注力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に作業をする等、関わりができています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても相談があれば対応したい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時に、モニタリングや再アセスメントを行い、意向の把握に努めている。また、日々の関わりの中で、意向の把握に努めている。	発語のできない方には、表情・仕草から思いを読み取っている。家族にも様子を伝え、5月半ばから、利用者の思いに応え、散歩に行く、居室で家族と面会することを、制限を設けつつ実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に確認したり、ご利用者とのかかわりの中で確認をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で把握に努めている。また、面会時やケアプランの更新時に意向確認に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、職員同士で対応などを考えている。モンテッソーリケアを実践しながら、認知症の方が生活しやすい環境を整えている。	入所後は3ヶ月で、以降は6ヶ月周期でプランの見直しを行っている。入居者の状況については、医師にも伝えている。申し送りノートを活用し、出勤時に日々の利用者の状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや個人ノート等を活用し見直ししている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を確認しながら、出来る限り努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議で町内会長や民生委員などと協力しているが、コロナの影響で地域行事などが中止となっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に往診に来て下さり、急変時も連絡し、受診、往診の対応をしている。	かかりつけ医の内科医師が往診しており、他科は家族対応で通院されている。他科での診療内容は、事業所からかかりつけ医に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回来て下さる訪看の方に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時に、SWと連携を図っている。 治療や入退院の意向を家族とも共有し、安心して治療が出来るように心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族より希望があった際は、その都度話す機会を作り、かかりつけ医の協力を依頼している。看取りプランを作成し、ご理解がいただける様にしている。	ターミナルケアについては、できることについて職員間で話し合い、支援を施している。亡くなられた後のデス・カンファレンスも実施し、次に繋げられる機会としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、行動できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。	火災を想定して、年2回の避難訓練を行っている。備蓄食料は、特別に用意はしていないが、普段から多めに食材を用意し、賞味期限を見て活用することとしている。また町内会からは、事業所を避難場所とさせてほしいとの話があり、了解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語ではないが、なじみのある言い方や表現で失礼のないよう対応している。	基本的には、苗字に「さん」を付けて呼んでいる。同姓の方が居られた場合には、名前に「さん」を付けている。プライバシーに関わる内容については、本人だけに伝わるように話しかけ、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員から提案するのではなく、利用者からの発信を待つ。また、出来るだけ選択が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで生活が出来るように、環境を整えたり、出来ることは出来るだけご自分で出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧水やヘアトリートメントを利用されている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、盛りつけ、片づけ等、できることを一緒にして頂いている。	食事は旬の食材を用いて、全て手作りで提供している。食事係がメニューを考え、食材の発注をし、冷蔵庫と相談しながら、利用者が楽しめるように心がけている。誕生日やイベントの時には、利用者に意向を確認し、希望される食事を提供して喜んでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事を残している方には、声をかけたり水分量は記録に残し把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科を利用し、アドバイスをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のリズムを把握し、定期的にトイレ誘導を行なっている。	チェック表を用いて状況確認を行っている。時間を見てトイレ誘導も行っているが、汚れが見られた場合の対応については、言葉掛けの時間を調整して、話し合いながら、実施している。	紙おむつから布パンツに自立できるように促すとともに、家族の協力を得るようにしてはいかがでしょうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に注意し、牛乳等、乳製品などを出したりしている。必要に応じて、主治医と相談し、排便調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	おおまかな時間は決まっているが、その中で出来る限り希望にそっている。	3日に1回、14時を目安に入浴を行っている。入浴剤を活用しており、季節時期に合わせて「ゆず湯」も取り入れている。入浴を嫌がられる方には「足を綺麗にしに行きましょう」「散歩に行きましょう」と「お風呂」というワードを出さずに促しを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個別で、日中に臥床時間を取ったり、入眠時間をそれぞれに合った時間にするなど対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルにとじ、すぐ確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合ったものを見つけ提供できるよう心がけている。出来ることは出来るだけご自分でしていただける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナのため、外出行事が中止となっている。また、日々の外出についてもあまり行えていない。	コロナ禍で外出できない代わりに、写真やビデオを見ていただき、想起できる環境を作っている。外の風に当たりたい方には、居室の窓を開けたり、ベランダに出させていただいたりして、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在希望される方がいないので所持していない。希望があればその都度検討する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればその都度対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにちがった空間づくりを行っている。ゆとりとした空気感を大切にしている。	モンテッソーリケアの一環として、自由に物を取れる棚を用意している。利用者ご自身のやりたいものを、自ら選んで、その人らしい生活ができるように配慮している。そして、共有の場所で過ごしやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は席は自由なので色々な席へ行きお話をされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔使っていた家具を持って来て頂く等、居室は自由に過しやすいよう工夫している。	居室に神棚を置くことで毎日祈れたり、デッキを用意して音楽が聞けたりする等、利用者各々がのびのびと過ごせる空間を形成している。車いすを、利用者が取りやすい場所に置き、家具が通路を妨げない配置にして、安全への配慮も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの看板を黄色の紙に黒字にする等工夫している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100620		
法人名	株式会社 メゾネット		
事業所名	グループホーム 星の家中央 (3F)		
所在地	岡山県岡山市北区奥田2丁目5-20		
自己評価作成日	令和 4 年 2 月 28 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症をお持ちの方が生活しやすいように、モンテッソーリケアを会社全体で取り組んでおり、ご入居者が、楽しみや生きがいを感じて頂ける様に支援している。出来る限り、ご自分で出来るように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100620-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390100620-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 4 年 6 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念であるモンテッソーリケアを約5年実践している。職員は、利用者が、このグループホームで生活しやすいように、時間を利用者に合わせ、利用者一人ひとりが自分らしさを取り戻している。歩行は、廊下にテープで線を引き、歩きやすくしたり、蛇口から水を出すために「押す」という動作を示すシールを貼ったりすることで、利用者と職員との距離感を縮めている。また、日々の利用者の行動を手を取る事が出来るように申し送りノートに記載し、申し送りノートを確実に情報共有し、次に何をすればいいのかを検討・模索できる体制となっている。利用者本位のケアが実践でき、穏やかで安心した空間作りとなっている。職員の意見もゲートキーパー役の職員が、いつ何時でも語れ、施設の発展に向けて一丸となってベクトルを合わせていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	<b>有限会社アウルメディカルサービス</b>	

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をラミネートして事務所に掲示している。	理念は各事務所と会議室に掲示している。理念であるモンテッソーリケアを意識して支援を行っており、新規職員が入った場合には、理念を伝えるだけでなく、5つのポイントを順に課題として掲げ、支援に役立てて頂いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染のため、ボランティアの受け入れを中止している。	町内会に入っており、今年度は組長になっていることもあり、町内の方と一層多くの関りを持っている。ゴミ当番等の役割にも、積極的に参加し、毎週土曜日には、ゲートボールの見学に行き縁を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で町内会長や民生委員、地域包括支援センターの方に伝えているが、コロナ感染のため、中止となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染のため、中止となっている。構成員やご家族へは、電話での聞き取りになっている。報告書を作成し、配布している。	地域生活包括支援センター、民生委員、町内会の方が参加されている。開催ができない場合には、電話で様子を伝えている。民生委員の意見から、地域活動への参加が増えている。	運営推進会議の資料を送られる際に、事業所内で作成している新聞を同封し、面会に来られている姿に変わる近況も伝えて、ご意見をいただければどうでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方など、積極的に関わりを持たせて頂いているが、コロナの影響であまり出来ていない。	運営推進会議に合わせ、2ヶ月に1度、施設長が必ず電話連絡を入れ、状況報告を行っている。市町村との連絡は、会社を中心に行っており、情報は会社から受け取っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内での、管理者会議で身体拘束廃止委員会、事故対策委員会、感染症対策委員会等で検討した事を職員会議で報告、共有している。	会社全体では、年に2回研修を行っている。事業所内では、2ヶ月に1度、話し合う機会を設けている。スピーチロックとならない方法や、車いすを置く位置によっては、身体拘束にあたるのではないかという内容が議題に挙がることが多い。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での、管理者会議で身体拘束廃止委員会、事故対策委員会、感染症対策委員会等で検討した事を職員会議で報告、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の研修が開催された際は、参加している。また、研修内容を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約時やアセスメント時にきちんと説明できている。また、法改正などがある際は、同意書などを交わすように徹底している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で、報告書を配布している。現在、コロナのため、中止となっているが、電話などで確認をしている。	家族からは、利用者に「もう一回会いたい」「一緒に出掛けたい」との言葉が見られている。コロナの状況を加味し、制限を設けつつ思いを汲み取るように努めている。難しい場合には、理由を説明しており、ケアプランにも掲げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務報告書やホットラインの活用し、職員からの意見を取り入れている。	毎月職員より、業務報告書として課題が挙がっている。その際には、どうすれば良いかを検討し、起案として上げている。課題に対しては、会社として必ず回答することとしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	必要に応じて、面談などを行っている。退職者を無くすため、受入れのマニュアルを作成したり、処遇なども定期的に見直しをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員に新人レポートやチャック表を作成し、活用している。社内研修や外部の研修にも参加出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月、本社での会議や年に3回の親睦会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新入居時のインテークや入居してからの関わりを通して、把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に職員からのお願い等を管理が窓口でご家族とお話しをする。不在の時は申し送りに対応出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度困っている事を発信して頂ける様に声をさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と会話をしっかりして向き合っていると思う。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人と会話をしっかりして向き合っていると思う。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書き等、届いた時は居室に保管している。ご返事を書ける様支援したい。リモート面会や電話での会話を希望される方は希望に応じて行っている。	スーパーなど、行き慣れた場所に行かれると「来たことがある」との言葉が見られ、馴染みの場所になっていることに実感が持てる。テレビや新聞、写真を活用し、思い出を想起してもらうことに注力している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者の関係性に応じて、席変えをしたり、コミュニケーションが円滑になるように関わりをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も入院者については、面会などに行っている。また、ご家族からの相談なども継続している方もおられる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランの更新時に再アセスメントを行い、ご本人やご家族の意向を確認している。	発語のできない方には、表情・仕草から思いを読み取っている。家族にも様子を伝え、5月半ばから、利用者の思いに応え、散歩に行く、居室で家族と面会することを、制限を設けつつ実施している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常の会話、アセスメント表で確認、対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りで確認して、その都度対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、カンファレンスを行い、職員同士で対応などを考えている。モンテッソーリケアを実践しながら、認知症の方が生活しやすい環境を整えている。	入所後は3ヶ月で、以降は6ヶ月周期でプランの見直しを行っている。入居者の状況については、医師にも伝えている。申し送りノートを活用し、出勤時に日々の利用者の状況を確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のカンファレンスや毎日の申し送り時などに共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を確認しながら、出来る限り努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事等を回覧版で確認して参加出来る様にしている。また、町内会長や民生委員などと連携を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2回/週の往診で対応、特変があればその都度連絡指示をもらえる様にしている。	かかりつけ医の内科医師が往診しており、他科は家族対応で通院されている。他科での診療内容は、事業所からかかりつけ医に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1回/週訪問看護の訪問あり。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、主治医から連絡をしてもらったり、ソーシャルワーカー等にはお見舞に行ったり、ご家族と話せる機会を相談して連携出来ていると思う。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設でも看取り介護をさせていただくことがあります。ご入居者様に状況を確認しながら、ご家族と相談している。	ターミナルケアについては、できることについて職員間で話し合い、支援を施している。亡くなられた後のデス・カンファレンスも実施し、次に繋げられる機会としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成しているが実際経験していない職員は不安な様子。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議等で町内会への協力依頼をしている。マニュアル作成している。	火災を想定して、年2回の避難訓練を行っている。備蓄食料は、特別に用意はしていないが、普段から多めに食材を用意し、賞味期限を見て活用することとしている。また町内会からは、事業所を避難場所とさせてほしいとの話があり、了解している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助の必要な方への声かけには気をつける様、対応している。	基本的には、苗字に「さん」を付けて呼んでいる。同姓の方が居られた場合には、名前に「さん」を付けている。プライバシーに関わる内容については、本人だけに伝わるように話しかけ、対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り選択をしていただけるような環境や声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	リビングや居室で自分の好きな過ごし方が出来る人が増えた。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で出来る方が増えている。出来ない方には更衣の前に確認している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳やお茶入れなど、ご自分で出来る方はお手伝いをお願いしている。	食事は旬の食材を用いて、全て手作りで提供している。食事係がメニューを考え、食材の発注をし、冷蔵庫と相談しながら、利用者が楽しめるように心がけている。誕生日やイベントの時には、利用者に意向を確認し、希望される食事を提供して喜んでいただいている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	申し送り表や生活記録表に毎日記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来ている。ご家族の了解を頂いて個人で週一回アップル歯科受診している方もあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護度や排泄機能に合わせたオムツetc使用し、トイレ誘導など行っている。	チェック表を用いて状況確認を行っている。時間を見てトイレ誘導も行っているが、汚れが見られた場合の対応については、言葉掛けの時間を調整して、話し合いながら、実施している。	紙おむつから布パンツに自立できるように促すとともに、家族の協力を得るようにしてはいかがでしょうか。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事でヨーグルトを提供したりヤクルトを個別で購入したりしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴は難しいが本人のタイミングに合わせて様になっている。	3日に1回、14時を目安に入浴を行っている。入浴剤を活用しており、季節時期に合わせて「ゆず湯」も取り入れている。入浴を嫌がられる方には「足を綺麗にしに行きましょう」「散歩に行きましょう」と「お風呂」というワードを出さずに促しを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠時は昼寝の声かけをするなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬手帳などすぐ確認できるようにしており、薬剤師にも相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の中でも一緒に出来る事は行い、行事も参加してもらったり、買い物に行ったりと楽しんでもらえるよう努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出や外泊も御家族に協力して頂きながらしている。地域の行事にも参加している。	コロナ禍で外出できない代わりに、写真やビデオを見ていただき、想起できる環境を作っている。外の風に当たりたい方には、居室の窓を開けたり、ベランダに出ているなどして、対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2名の方が財布を持っていて、週1回ヤクルト販売の購入、支払いを行っている。気候の良い日には買い物に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っている方がおられ、充電等必要な事を援助している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには季節の絵を書き、折り紙で貼り絵、折った物で壁画作りをして貼っている。	モンテッソーリケアの一環として、自由に物を取れる棚を用意している。利用者ご自身のやりたいものを、自ら選んで、その人らしい生活ができるように配慮している。そして、共有の場所で過ごしやすいように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の位置の配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やトイレなどの場所が分かりやすいように表示とつり付けている。テブラなどを使用し、迷いにくい環境整備に取り組んでいる。	居室に神棚を置くことで毎日祈れたり、デッキを用意して音楽が聞けたりする等、利用者各々がのびのびと過ごせる空間を形成している。車いすを、利用者が取りやすい場所に置き、家具が通路を妨げない配置にして、安全への配慮も行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来ることはご自分でして頂きながら、出来るだけ自立した生活が出来るよう支援しています。		